

すだち通信第 16 号

目次

近況報告－1・2、各事業報告－3・4

新人職員紹介、ベーカーリーからのお知らせ－5・6

発行日 平成 27 年 4 月

東京都杉並区今川 2-14-12

杉並育成園すだちの里すぎなみ

「新たな 10 年の始まりにあたって」

<すだちの里のミッション・・・>

「地域で自分の生活を始めよう」をスローガンに、一人ひとりにふさわしい地域生活への移行とその後の生活を支援します。

すだちの里が開所した平成 18 年以前から盛んに「地域で当たり前暮らすこと」が議論されています。一方で私たちが暮らす東京では安心して暮らし続けていくことへの不安がますます大きくなっているようにも感じています。

この 10 年間求められる役割や地域生活の普及を進めるにはどうすればいいのかを職員と共に考え続けています。この春は報酬改定や社会福祉法人改革など事業運営に影響する事への対応がすでに始まっていますが、今年度の事業計画として基本となる 5 つの方針を策定しましたので紹介します。

- ① 行動障害、医療ケアなどへの対応力を向上させ地域生活移行を進める。
- ② 全利用者のサービス等利用計画を完成させケアマネジメントの基本とする。

入所施設は、行動障害や高齢者への対応が期待されています。

すだちの里でも定員の半数は重度障害者支援加算対象者です。(障害支援区分の行動関連項目が 10 点以上の方) また、40 代以上になって新たに入所される方も増えている現状があります。

障害や年齢に関係なく地域のグループホームなどで生活するためには個人に応じた具体的な形を準備することが大切です。入所中は、どのような環境なら地域での暮らしが可能かを基準に支援を組み立てています。

しかし、支援者や環境が変わることで予想されることに対応は可能か。通院や移動の手段など地域生活に移った時に支障になることはないか。日中活動の場や余暇の過ごし方など生活スケジュールは見通しが持てるかなど、いわゆるサービス等利用計画に盛り込まれることについてどこまで見える形を作ることが出来るかが本人や関係者の安心感につながります。これからも一人ひとりの地域生活移行に力を尽くしていきたいと思えます。

③ 地域の拠点施設としての役割を果たす。

地域生活に移行しグループホームで何年か過ごしている間に病気を抱えてしまった。仲間と折り合いが悪くなってそこで暮らしたくないと思うようになった。失業してしまうなど新たな課題を抱えた。すだちの里で暮らしていれば課題を抱えた時に安心だったかもしれない。しかし、多くの方が地域に出て行ったことで利用者を中心に関係者の輪が広がり一緒に相談しながら方向を考えることが当たり前になってきました。

また、グループホームの運営などについて情報交換や研修など法人を超えて関わりが作られることで利用者の選択肢が増えていると感じています。これからも少しずつ拠点施設となるよう役割を果たしていきたいと思います。

④ 今後の中長期計画を作成する。

⑤ 生活介護分場の整備を進める。

社会福祉法人改革では、社会福祉を目的とする地域公益活動を進めることを求めています。法人として大きな課題ですが、施設運営についても同じようにあり方が問われています。すだちの里の場合、建物としては減価償却から考えると40年後くらいに建て替えが予想されます。5年後くらいからは規模の大きな修繕なども必要になるでしょう。事業展開としては、ニーズに合わせて期待されているグループホームの整備や日中活動場所の確保それに伴う人件費の積立などあらためて具体的に資金計画を見直さなければなりません。

利用者のニーズに直接答えていくことが施設の使命ですが、少し広い視野に立って利用者の暮らしを築いていく地域がより良い場所となることが根本的には大切なことです。例えば、引きこもっている方への支援などを自主的に行っている支援センターすだちの事業などは地域とのつながりで欠かせない事業となっています。

社会福祉法人が運営する施設として中長期計画をブラッシュアップしてすだちの里としてできることを進めていきたいと思います。

施設長 仁田坂 和夫



各事業報告

～すだちの里開所 10 周年を迎えるにあたり～各事業の振り返り、展望

① 夜間支援 （施設入所支援）

すだちの里では開所から 9 年の間に 55 名（女性 17 名、男性 38 名）の方たちが地域移行してきました。

すだちの里で日々の生活や作業体験を積み重ねて生活リズムが整い、気持ちが安定され、他の就労・作業場所、生活の場へ行っても継続して落ち着いた生活ができる力を身につけて移行されました。現在すだちで生活している方達もこの 9 年の間に様々な変化がありました。

体力面での変化があったためその方に合った様々な福祉用具の活用をしながら生活を継続している方、人や環境の変化に対応するのが難しかった方が少人数でスペースの小さな生活ユニットに変更することで生活の見通しがたち、支援員が常に側にいなくても一人で居室の中で過ごす時間を持てるようになった方達などです。

入所当初、7 人のユニットで広いスペースの中で大人数で生活していた方たちが現在 4 人のユニットに移って生活しています。支援員は夕方に一度勤務交代していますがそれ以外の人への出入りは少なく、スペースも小さなユニットです。生活に見通しがついたことで周りを気にすることが減り、日課が終わると居室の中に入って一人で文字書きやパズルなどを行うことができるようになりました。生活が落ち着いたことで地域へ出る機会を増やすことができ、移動支援を利用して近隣散歩や軽食外出、公共交通機関に乗ってプールへ行くなど楽しみながら活動しています。

これからも利用者さんが社会に出て地域生活できる力を身につけられるよう、一人ひとりの方に合った丁寧な支援を継続し、地域移行につなげていけたらと思っています。

女性ユニットリーダー 村田美穂

② 日中活動 （生活介護・自立訓練・就労移行支援）

すだちの里の日中活動を利用されている方は現在 52 名いらっしゃいます。その大半は夜間支援を利用されている方々ですが、10 名の方々がご自宅やグループホームから通われています。すだちの里すぎなみが開所してから今年 4 月で 10 年目となりますが、開所当時 50 名の入所者が対象だった日中活動も、卒業された方を含め地域で暮らす方達からも必要とされる場所へと変わってきました。

すだちの里の日中活動のスペースは十分に広いとは言えませんが、パン工房でパン作りに励む方、施設内の清掃をする方、構造化された環境で個別のプログラムを実践する方、機織り機を使いランチョンマットを作る方など、それぞれ自分に合った活動を見つけ活躍されています。作業工程を理解しどんどん作業効率が上達する方もいますし、自分から進んで取り組めることがゆっくり一つずつ増えていく方もおり、その成長を近くで感じられることはとても嬉しく思います。また、どのような配慮があればその方らしく活躍し成長できるのかを支援者が見極め伝えていけるようにならなくてはなりません。

開所から現在に至るまで、日中活動支援と夜間支援のスタッフを明確には分けず一日を通して利用者ひとり一人を知ることが大切になってきました。地域移行の際に、住まいの場にも日中活動の場にも必要な支援内容を引き継ぐことが必要とされるからです。

また、24時間の支援だからこそ知ることができる状態の変化や、特徴を掴むことでそれぞれの課題になっている部分へどのように働きかけることができるかを日々模索しています。中には日中活動に参加すること自体が課題となっている方もいますが、最近になって「お寺に御参りに行きましょう」「美味しいお茶を飲みましょう」といった形で声をかけ、支援者と二人でならば出かけられるようになった方がいます。

所属している活動班への参加を目標としていましたが、支援者が設けたハードルにとらわれすぎずに柔軟に個別の対応ができれば活動の幅は広がっていくことを実感させられました。

ウォーキングやドライブなど施設での活動で外に出ることだけではなく、移動支援を利用される方が増えてきました。平日でも毎日何名もの方が外に出て活動をしています。個人にしっかりとスポットが当たり、地域の中で生活ができていると実感ができる活動をより質を高く提供できることを目指していきたいと思います。

日中活動リーダー 藤田修司

② グループホームらいむ松庵（共同生活援助）

私がすだちの里で勤務していた時に、利用者の地域移行を目標に個別支援計画を立て、数名の担当利用者の地域移行に携わる事が出来ていました。地域移行に向け GH の見学や通所先の実習も同行し、地域での生活を想定して、移行に繋げる事が出来たと感じていました。移行後のアフターケアなどは相談支援事業所にお任せしており、実際に自分の目で移行後の様子を確認するには至っておらず、地域生活を始めてからの利用者の様子をうかがい知る事がなかなか出来ていませんでした。また、GH で勤務する上での懸念（定期通院や緊急通院の付き添い・通所先との連携・移動支援事業所との調整など）はあまり知る事が出来ていませんでした。

利用者の生活に目を向けると、移行後にも通所、定期通院、休日の外出などと外部とのつながりと継続しての支援が必要です。また、本人の高齢化、医療的ケア、成年後見人制度の活用など新たな課題も出て来ています。その都度、関係各所と連携して対応にあたっています。

支援者の業務については、例えば入所施設では利用者の体調不良の場合などは看護師に相談し、通院を検討していました。GH ではその日に勤務している世話人が判断し、通院を行います。もちろん、他の方の生活支援も並行して行う為、双方の安全を確保しながらの対応となります。らいむ松庵では男女1名ずつの当直者がおり、早番・遅番の勤務者が1名ずついる為引継ぎを行いながら通院を行っています。地域のGHは世話人さん1名での支援が多く、かなり気苦労されていると感じています。

らいむ松庵が開設し、3年が経過した今 GH として軌道に乗って来たと感じています。開所当時には入居者・世話人共に戸惑いなどもありましたが、お互いが生活に慣れ少しずつではありますが落ち着いた生活を送っています。続々と出てくる課題（本人の高齢化・医療的ケア・障害の重度化など）に対して世話人や本人と関わる支援者が一丸となって支える事が必要だと改めて感じています。

すだちの里で働く後輩支援員に出来る限り地域生活が想像出来るように伝える事と体験してもらう事がすだちの里から移行する利用者のより良い地域移行につながると感じています。



グループホームらいむ松庵リーダー 藤井光夫

新人紹介

すだちの里で仕事を始めて1年が経ちました。現在は夜間支援を担当しており、主な業務は利用者さんの入浴、食事、洗濯等の介助をしています。

以前は保育や介護の専門学校で学んでいましたが、障害のある方と接する機会は実習程度しかなく、日々働きながら学びを深めています。

入職から1年間働いていてもわからない事の方が多く、失敗をして怒られる事もありました。しかし先輩職員に励ましやアドバイスを頂いたり、利用者さんの笑顔や作業を頑張っている姿を見ると自分も頑張りたいと前向きに思う事ができました。

すだちの里は地域移行型の入所施設で、グループホーム等への移行を想定した取り組みを行っています。その取り組みの一つとして私が担当している利用者さんに日常的に便失禁がある為、パッドを使用している方がいました。その方への支援として他の人と同じようにパンツを履ける取り組みを段階的に行い、その結果、パッドを使用せず、日常的にパンツを履いて生活する事が出来ています。

この取り組みを通して地域移行に向けた、利用者さんの気持ちに寄りそった支援を行う事の大切さを知ることができました。また、生活支援員は利用者さんの小さな変化をそばで感じる事の出来る貴重な仕事だと働いてみてわかりました。これからも利用者さんの気持ちを考えた支援を行っていきたいです。

生活支援員 井上 拓弥

すだちの里と地域のつながり

すだちの里が開所してから月日が経ち、10年目を迎えます。

すだちの里の日中活動のひとつである、生産活動の喫茶店を通して日々地域のお客様に来店していただき、口コミや地域での販売などですだちの里をたくさんの方に知っていただけるようになりました。

また、近隣の喫茶店ですだちの食パンを使用していただいたり、幼稚園のお誕生日会のデザート、高齢者施設での食事用のパン、定期的に高齢者施設での販売、大学の懇親会用の焼き菓子など近隣にお住まいのお客様はもちろんですが、その他にも近隣施設などから継続的にご利用をいただいています。

すだちの里が在る、杉並区今川の“今川町商栄会”の方にはすだちの文化祭での模擬店の手伝いをしていただいたり、わいわいサンデーや神輿まつりなど利用者とともに楽しめるイベントへのお誘いしていただき、日頃より支えていただいております。

近年は今川町商栄会のバスハイクにお誘いいただき、参加をさせていただいています。今年は山梨県で美味しい懐石料理や温泉、買い物などとても楽しい1日を過ごさせていただきました。1日ご一緒させていただく中ですだちの里のことや様々なお話することで、お互いを知り、より一層地域とのつながりを深めることができたのではないかと思います。

地域の方のご理解やご協力があってこそ、すだちの里の利用者の“地域生活”を目指して、活動や生活ができています。今後も地域とのつながりを大切にしながら、より多くの地域の方にすだちの里を知っていただけるよう日々取り組んでいけたらと思っております。

支援員 林 伊織



『すだちマルシェ』

私たちは山梨県北杜市にある社会福祉法人ハケ岳名水会 春の陽です。

春の陽では約 60 名の利用者さんが在籍しており、みんなのやりたいことに合わせて、農業や養鶏、リサイクル、豆腐作り、食堂、おやつ作りなど様々な活動を地域の方々とのつながりを大切にしながら取り組んでいます。

すだちマルシェ開催の際に毎回販売に携わっている利用者の方に普段の春の陽での取り組みやすだちマルシェについて以下にまとめていただきました。 社会福祉法人ハケ岳名水会 春の陽(はるのひ) 鴨狩

春の陽では、農薬を使わず作った“精米”や“玄米”“梅ジュース”“味噌”“野菜”“豆腐”“パスタソース”等を作り、春の陽近隣の『スーパーやまと』や『白州道の駅』等で販売しています。そして、すだちの里では月一回『すだちマルシェ』とし、春の陽製品はもちろん、日頃お世話になっているハケ岳の地域農家さんが無農薬で作った野菜やドレッシングなどと一緒に販売をしています。

すだちマルシェでの販売は 4 月で 1 年を迎えます。回数を重ねる毎にお客さんも増えてきました。これからもたくさんの方に春の陽の商品、ハケ岳の農産物を知ってもらうために頑張って、美味しい味噌や豆腐等を作っていきます。先日の販売の際にチラシを見てくださったお客さんより『チラシに販売品物の値段を入れたら、初めてのお客さんも買ってくれる』とアドバイス頂き、早速チラシに価格表をつけました。

春になったら美味しい野菜を持って行きますので、今後どうぞ宜しくお願い致します。 樋口



すだち喫茶&ベーカリーからのお知らせ~新メニューのご案内~

多くの常連さんからご要望がありました金曜日のフランスパン販売を始めました！

定番で大人気の明太フランスに加え、金曜日限定のフランスパンをご用意しています。

※その日の材料の状況により製造する種類、個数が異なります。

また、パンと並び人気の焼き菓子も¥150 の新作が続々登場中です！

飲み物とのセットも承っていますので、ぜひご利用ください。季節限定の商品もありますので、お見逃しなく！

